即時中止を！
ロ・ウ戦争
イ・パ戦争
軍拡・増税
処理水投棄

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 **No.399**

2023（令和5）年10月30日（月）発行

■10月中旬の新聞各社の**岸田文雄首相の内閣支持率**は、毎日25％、朝日29％、読売34％、共同通信32.3％、時事通信26.3％、と軒並み過去最低を記録しています。18～29歳の若者の支持率が10.3％、70歳以上の高齢者が36％も支持。皆さんは岸田首相・内閣をどう思われますか。

NO WAR 「9条の会」はどんな戦争にも反対です

「良い戦争などないし、悪い平和などもありません」ベンジャミン・フランクリン

ロシア・ウクライナ戦争もイスラエル・パレスチナ戦争も、即時停戦すべきです！

＜署名のご協力ありがとうございました＞

2023ノーベル平和賞は、イランの女性活動家に

8月の『九条はらまち』で**「憲法9条にノーベル平和賞を」**の署名を皆さまにお願いしましたが、ご協力ありがとうございました。事務局員がお預かりした署名約350筆は、神奈川県の実行委員会に郵送し、さらに全国からの署名（総数は不明）とともに、ノルウェーのノーベル委員会に送信されました。

10月6日の発表で「日本国憲法第9条」には授与されず、イランで収監中の人権活動家**ナルゲス・モハンマディさん（51）**に授与されました。授与理由は「イランにおける女性の抑圧と闘い、すべてのひとの人権と自由を促進した」と、現在も苦闘されている方です。

モハンマディさんは、逮捕13回、合計31年の禁固刑と154回のむち打ち刑。現在も収監中。

今年のノーベル平和賞には351候補（259人、92団体）が応募。「憲法第9条」は2014年から応募していて、実行委員会では今後も応募活動を続けます。私たちも署名などに頑張りましょう。

50年前、双葉高校生が「原発の安全性のアンケート」

学校新聞で、原発設置に賛成28％、反対62％

＜10月24日の「『福島民報』＞によると、福島第一原発が稼働して3年目の1973年11月17日の県立双葉高校の『双高新聞』は、「原子力発電の安全性を問う」という特集を組み、原発設置について地域住民にアンケートを実施していました。現在休校中の双葉高校は今年創立100周年を迎えますが、関東に避難している当時の新聞部員がその学校新聞を見つけ出し話題になっています。

アンケートは200世帯（87％回収）中、賛成28％、反対62％、分らない12％という結果で、新聞部の生徒達が「どうしてここ（双葉町）に不安のある原発を作らなければならないのか」という疑問を投げかけています。当時国や県も町も一体となった原発推進の中で、新聞部顧問斉藤六郎先生の指導や支え、何より生徒たちの意識の高さに考えさせられます。

今年6月、相馬高校放送局の生徒達が「処理水放出」について疑問視するラジオ番組を制作したという報道がありました。若者の意見にこそ耳を傾け、尊重したいものです。

No.399

人権を考える今話題の映画

関東大震災時の行商人虐殺 人種偏見の『福田村事件』

©「福田村事件」プロジェクト2023

監督：森達也・137分

＜事件＞百年前の1923（大正12）年9月1日の関東大震災発生直後の9月6日のこと、千葉県福田村・田中村を通過中の香川県の行商人一行15人が朝鮮人と誤解され、住民たちに襲われ9人が虐殺された史実の陰湿な事件です。

背景には、日清日露戦争、朝鮮への植民地支配、朝鮮人への偏見や蔑視がありました。

＜原作＞　ルポライター・辻野弥生著『福田村事件』五月書房新社発行・2200円・2013年

＜映画＞朝鮮で日本軍の虐殺事件を目撃した澤田は妻と故郷の福田村に帰ってくる。関東大震災が起き、朝鮮人が「井戸に毒を入れた」「放火や暴動を起こしている」などの流言飛語が広がる。たまたま香川県から来ていた薬売りの行商人たちは讃岐弁の方言から朝鮮人と見なされ虐殺されてしまう。しかし村の汚点として皆が口を閉ざし、きちんと記録にも残されず、行商人たちは被差別部落出身者のため被害者の名前は全て仮名で記されていたという。

出演：井浦新/田中麗奈/永山瑛太/東出昌太/ピエール瀧/水道橋博士/豊原功補/柄本明

現在でも様々な偏見が渦巻いています。私たち原発事故被災民も「バイキン」でしたから…。

袴田巌さん 冤罪で47年間の死刑囚 『拳と祈り』

©2023 Rain field Production

監督・撮影・編集：笠井千晶・159分

＜事件＞1966（昭和41）年6月静岡市でみそ製造会社の専務一家4人が殺害された。8月に従業員袴田巌さん（30歳）が強盗殺人容疑で逮捕。翌67年8月になって工場のみそタンクの底から「5点の衣類」が見つかるが、検察は袴田さんの着衣だと証拠品とする。袴田さんは無罪を主張してきたが、68年9月静岡地裁が死刑判決。2014年3月静岡地裁が再審請求を認め、78歳の袴田さんは47年7カ月ぶりに釈放された。今年10月27日から再審開始。

＜映画＞釈放され、姉秀子さんと自宅に戻る車の中の袴田さん。かつてはボクサーで活躍したが、長い獄中生活で"拘禁反応"となり、習慣で一日十時間以上部屋中を歩き、足の爪はすべて痛々しく変形しています。

また静岡地裁の元裁判官熊本典道さんは、無実を心証しても1対2で死刑の判決文を書き後悔し、袴田さんと同じカトリックに入信、病床で袴田さんと面会した場面も感動的です。

映画は全国に先駆け福島市のフォーラム福島で上映後、巌さんを支えてきた姉の袴田秀子さんのゲストトークがあり、90歳でもバイタリテーや強さや明朗さにも敬服しました。

＜映画完成版＞は来年全国上映されます。

相馬市出身・岩崎孝正監督の映画『海鳴りがきこえる』

岩崎孝正監督作品は山形国際ドキュメンタリー映画祭などでも上映。受賞多数。

＜映画＞主人公の理子奈（りこな・中村守里）は、中学の時の東日本大震災で父親を失い家族はバラバラになる。成長して写真家になり幸せな家庭を夢みるが…。被災者の喪失感や再生の希望を描いた長編劇映画。

＜監督＞の岩崎孝正さん（37）は、1985年相馬市磯部の寺の3人兄弟の末っ子で、相馬高校卒業。大震災の時は東京にいたが、すぐ帰郷して僧侶の父を手伝い、遺体安置所と葬儀場を往復する日々でした。その体験をもとにこのドラマを制作し、「原発事故がまさか自分に降りかかるとは。原発はない方がよかった」と話す。映画は71分、10月28日から公開、順次全国で上映されます。

＜9月26日『福島民友』、10月22日『しんぶん赤旗』日曜版より＞